

未成年でも楽しめる地方競馬の魅力

居神軍次（洲本高等学校 総合探究類型2年）

はじめに

中学生の時に競馬に興味を持ち、レースの予想をしたり、競走馬の魅力を感じたりしていく上で、勝敗を予想する以外にも楽しめる魅力があるのではないかと思い、またそれによって競馬に対して良いイメージを持つ人が増えるのではないかと考えた。そして、良い印象を持つ人が増加すると、競馬は地域活性化にも利用できるのではないかと考え、研究を始めた。

研究方法

- ①昔淡路島に存在していた競馬場について文献をもとに調査する。
- ②競馬に対してどんな印象を持っているか洲高生にアンケートをとる
- ③地方競馬、中央競馬の売上、入場者数の合計、平均、相乗(変化率)を求め、データを比較する
- ④現存する兵庫県内の地方競馬場と他県の地方競馬場の特徴を比較する。
→競馬場が現在抱えている問題&対する取り組みを考える

結果

1 淡路島に存在していた競馬場

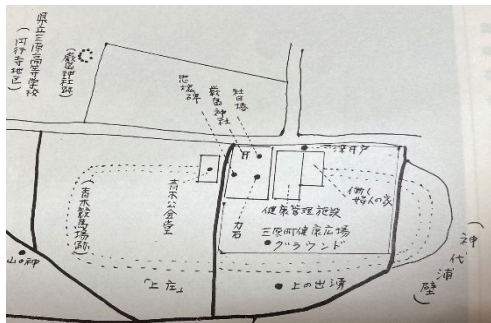


図1 淡路競馬場の地図

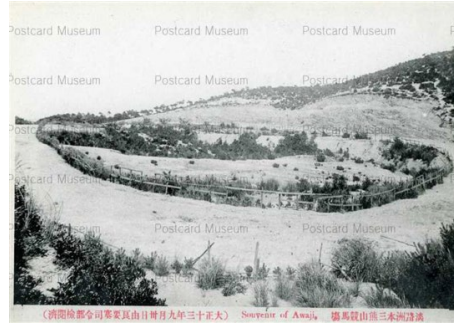


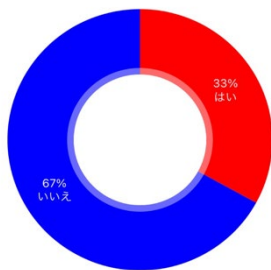
図2 三熊山競馬場の古絵葉書

調査の結果淡路島にはかつて2つの競場が存在していたことがわかった。

○淡路競馬場→1929年に開場。開設当初は賑わっていたが、離島である面や経済面で徐々に客足も減って営業困難に陥り、1949年に廃止

○三熊山競馬場→大正元年、馬の飼育の発展を目的に開場。しかし、淡路競馬場と同様経済的理由で昭和36年に廃止当時の地方競馬場の状況から売上、来場者数がともに少なく経営困難に陥っていることがわかった。

競馬に興味がある？



■ はい ■ いいえ

図3 競馬への興味の有

②アンケート結果からみる競馬のイメージ

若年層が競馬に対してどのような印象を持っているかを調査するため洲本高校の2年生238名にアンケートを実施した。図3にみるように、「競馬に興味を持っているか？」に対し「いいえ」と回答した人の割合が全体の67%とが圧倒的に多かった。このように若者の多くが競馬に興味を持っていないことが、地方競馬が衰退している一つの原因と考えられる。さらに競馬に興味を持っている、と答えた人のうちなぜ興味を持ったか理由を探った結果が図4である。

何で興味がある？

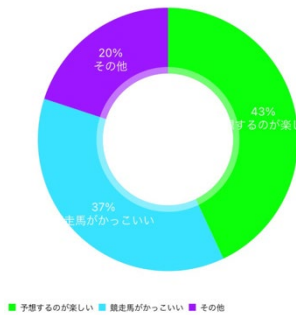


図4 競馬に興味を持つ理由

その内訳は40%の人が「予想が楽しい」、37%の人が「競走馬がかっこいい」というものであった。

また、図3で「競馬に興味がない」と答えた人の理由としては良くない印象を持っているのではないかと予想した。次回はアンケート内容を改訂し、もう一度、意識調査を行う予定である。

③地方と中央競馬場の比較

1991～2022年における中央競馬と地方競馬の馬券売上及び入場者数推移のデータより、売上、入場者数の合計、相加平均、相乗平均を求め、地方と中央競馬の現状を比較してみた。その結果を表1および図5に示した。

売上では4倍程度、来場者数では10%程度中央競馬の方が

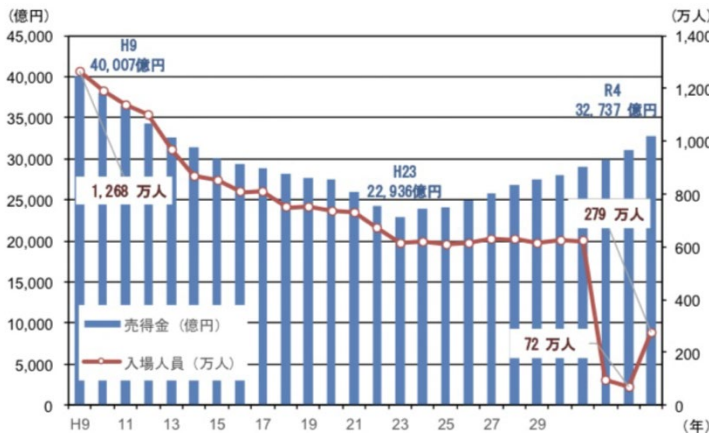
多いが、来場者数はどちらも年々減少傾向にある。令和2年からは増加に転じているが、これはウマ娘などの競馬関連アプリの普及や地方競馬法の改正で客が競馬場に来やすい環境になったことが原因と考えられる。また、売り上げ面では平成24年から売上が急激に増加しているが、これはネット投票の普及が考えられる。来場者数をもっと増加させる方法も考える

④兵庫県内競馬場と他県競馬場の特徴(サービス)の比較

現存する兵庫県内の地方競馬場である、園田競馬場と姫路競馬場が来場者に向け行っているサービスを調べて見た。園田競馬場では最寄りの駅から競馬場までの無料送迎バスや児童公園を設置している。また姫路競馬場ではコース内側にイベントの開催が可能な芝生広場や児童遊園地を設置している。他県の地方競馬場では水沢競馬場に神社の設置、浦和競馬場では母子家庭のための母子福祉売店サービスがあった。また川崎競馬場ではレース休止時にフリーマーケットが開催されていて、各競馬場が趣向を凝らした取り組みをしていることがわかった。全体として児童向けの施設が多いことから、これに加えて商業施設の導入など若年層向けのサービスも導入すればいいのではないかと考えた。

○ 中央競馬

日本中央競馬会(JRA)が全国10の競馬場で施行



○ 地方競馬

14主催者(都道府県及び指定市町村)が全国17の競馬場で施行

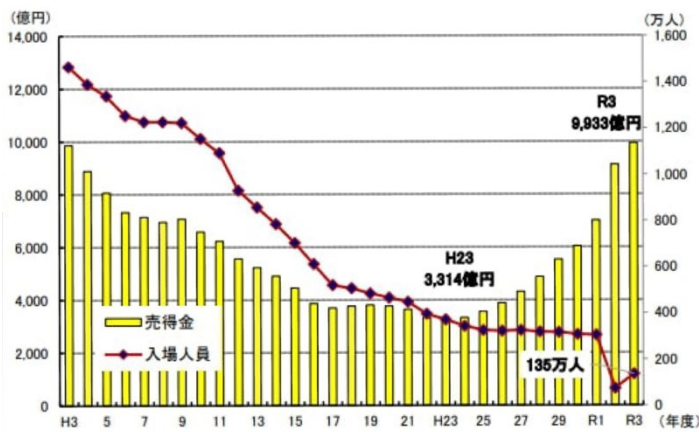


図5 中央競馬(上)と地方競馬(下)の売り上げ(左軸)と来場者数(右軸)の比較

・売上

	合計	相加平均	相乗平均
地方	約8兆円	約5000億円	約4000億円
中央	約128兆円	約1兆円	約8500億円

・来場者数

	合計	相加平均	相乗平均
地方	約4000万人	約250万人	約230万人
中央	約6億人	約800万人	約680万人

(表1)中央競馬と地方競馬の売り上げと来場者数の比較

考 察

現在の競馬場の問題点としてギャンブル依存症、劣悪な環境が挙げられる。それぞれについて次のような対策を考えてみた。まず、ギャンブル依存症についてはギャンブル依存症対策に基づき、相談窓口、SNSを利用した啓発活動を実施する必要がある。劣悪な環境の改善については、ポスターなどで美化を呼びかけ、定期的な清掃ボランティア活動を行うことで改善されると考える。また、

提 案

地方競馬場の来場者数を増やす対策として次を提案する。

- (1) 商業施設やレース休止時でも利用できる施設を増やすなどし、競馬場を観光客の施設としても利用しやすいものにしていく。イ
- (2) ウマ娘などの競馬関連とのコラボイベントを実施、若者の来場者数が増加するようにする。
- (3) 引退馬などを活用したふれあい体験やスポーツイベントなどを開催し地域の活性化の一つとする。

参考文献・サイト

- ・ふるさと 市のかたりべ 市地区公民館 (1987年、南あわじ市)
- ・競馬場のイベント開催がもたらす地域活性化の可能性 会津大学 小林裕次郎 Web上
- ・地方競馬のあらまし <https://www.keiba.go.jp>
- ・競馬活性化計画 <https://www.keiba.go.jp>